

定植後, 20日間隔で追肥

——永田 茂穂

シソ科の一年生草本です。原産地はヒマラヤ, 中国, ミャンマーと考えられています。日本へは中国を経て伝わったとされ, 古い時代から今日まで栽培されてきた香辛野菜で, 子実は薬用としても利用されています。

シソ特有の芳香成分はシソ油で, 刺身の生臭さを消すと同時に防腐作用のあるベリルアルデヒドを含みます。また, カロテン, ビタミンC, カルシウムが豊富で, ビタミンB類や鉄分も多く, 食欲増進効果にも優れます。

葉の色が表裏とも赤紫色の「赤シソ」や緑色の「青シソ (大葉)」があり, また, 片方だけ赤紫色のものもあります。部位によって, 使い分けられ, 芽シソ, 花穂, 大葉は刺身のつまや薬味に, 穂シソ, 大葉はてんぷらに, また熟したシソの実は漬物やつくだ煮に利用されています。赤シソは, 梅干しなどの紅付けやふりかけなどにも利用されています。

生育適温は22度前後で, 温暖な気候を好み, 高温には比較的強いですが, 低温には弱いです。ここでは青シソの普通栽培を紹介します。

播種期は3月下旬～5月上旬です。土質は選びませんが, 肥よく排水の良いほ場を準備します。播種の一週間前後までに, 1平方メートル当たり堆肥2キログラム, 苦土石灰100グラム, 化学肥料50グラム (3要素15%の場合) 程度を施し, 耕うん後, 床幅60センチ程度の播種床を作ります。1平方メートル当たり20ミリの種子をばらまきにして, 薄く覆土します。たっぷりかん水し, 新聞紙などで覆い乾燥を防ぎます。発芽後, 本葉2枚程度で3センチ間隔に間引き, 本葉5枚程度で定植します。

本ばは, 1平方メートル当たり堆肥2キログラム, 苦土石灰100グラム, 化学肥料100グラム (3要素15%の場合) 程度を施し, 耕うん後, うね幅150センチ, 床幅80センチ程度の平床を作ります。条間30センチ, 株間20センチ程度の2条植で定植し, 十分かん水します。

また, おおよそ20日間隔で追肥をします。1平方メートル当たり化学肥料20グラム (3要素15%の場合) 程度を施します。

定植後30日程度から収穫になります。成長点に近く, 十分展葉して若々しく, 葉の幅が4～6センチに成長したものを収穫します。



(鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長)

平成22年2月11日 (木) / 南日本新聞